

〔『未知への挑戦』とくしま行動計画〕
〔v s 東京『とくしま回帰』総合戦略〕の次年度の評価方法（素案）

1 評価（＝効果検証）の意義

数値目標の達成状況を確認し、そのうち未達成のものを洗い出し、未達成の要因を探り、その要因を生む課題を明らかにし、解決の糸口を見いだすこと。

2 これまでの戦略会議の方向性

平成28年度に「新未来『創造』とくしま行動計画」の初回評価を行うに先立って、同計画の前身である「いけるよ！徳島・行動計画」の評価までの基本スタンスであった「ABC評価判定」の重視から、計画の改善見直しに向けた「委員からの提言」の重視（未来志向）に軸足を移した。

3 評価方法の見直し（素案）

次年度実施する『未知への挑戦』とくしま行動計画の初回評価及び「v s 東京『とくしま回帰』総合戦略」の総括評価については、次の方向性で検討したい。

【方向性①】 1の意義をより効果的に実現する。

【方向性②】 2の「委員からの提言」の重視を更に推し進める。

【方向性③】 委員及び部局の負担を軽減する。

（1）数値目標達成率による客観的なABC判定（1次判定）

→代表委員による評価私案制度を廃止（原則として1次判定を尊重）

→部局との質疑応答を未達要因の聴取，課題の指摘等に重点化

→計画の改善見直しにつながる議論，提言等の更なる充実

→特殊事情があるもの，達成率が境界層のもの等で判定変更も（2次判定）

		(R1までの骨格)			(R2以降の骨格例)		
		数値目標達成状況 (点)			数値目標の達成率 (%)		
		良好 (1.8以上)	概ね良好 (1.6以上)	不十分 (1.6未満)	達成 (100以上)	許容 (80以上)	不十分 (80未満)
今後の 取組方針 (等)	妥当	A	B	C	A	B	C
	概ね妥当	A	B	C			
	不十分	B	C	C			

A：順調 B：概ね順調 C：要見直し

（2）行動計画と総合戦略のABC判定単位の統一

→行動計画のABC判定単位を「主要事業」に戻し，総合戦略と統一

→行動計画と総合戦略とで重複する「主要事業」の評価作業を1回に集約